

# 岩城光英の永田町だより vol.311

全国的に秋晴れの連休でした。暑いと言っても夏の焼き付けるような暑さではなく、秋の訪れを感じさせるものです。お変わりありませんか。

昨日(9月15日)は、敬老の日でした。総務省が14日、「敬老の日」人口推計を公表しております。65歳以上の高齢者人口が3296万人(総人口の25.9%)、75歳以上が1590万人(同12.5%)となり、いずれも過去最高です。また、100歳以上の高齢者は、全国で5万8千人となり、44年連続で最多を更新しているとのことです。日本は世界各国との比較では、現在のところ低負担で高福祉を実現しているとも言われています。

お年寄りの皆様が、安心して生活できる国を作ること、今日の日本を築いていただいた方々への恩返しでもあります。

しかし、これから団塊世代が高齢化し、それと反対に、生産年齢の世代が少子化の影響で少なくなっていく現状を見れば、これからの福祉はどうあるべきなのか、具体的にその対策を構じなければなりません。国庫収支のバランス・政策の優先順位などを総合的に考えていくことや、国民の理解も必要です。施策の情報開示と国民一人ひとりが我が身のこととして受け止める覚悟が求められる時にきているように思われます。

さて、今号は、大震災復興支援施策について、お知らせいたします。

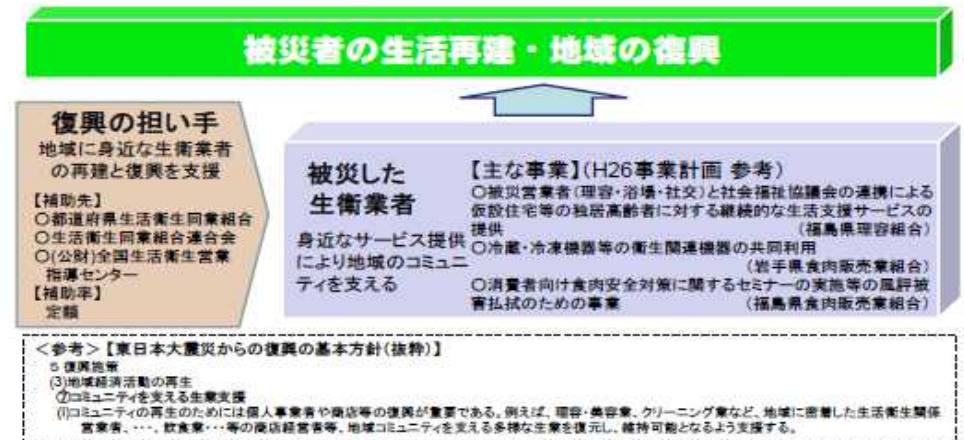
## 「東日本大震災からの被災者支援について」

### 被災した生活衛生関係業者への支援(復興庁一括計上)

予算額  
71百万円

#### 【事業概要】

東日本大震災で被災した生活衛生関係業者の自立支援、被災地の復興に資するため、経営相談、共同利用設備への支援等を実施する。



**【被災した子どもへの支援(新規)40億円】** 仮設住宅に住む子どもが安心して過ごすことができる居場所づくり事業や、子育て世帯を訪問し、心身の健康に関する相談・支援を行う事業の創設、子どもの心・体のケア、遊具の設置等、被災3県での総合的な支援を図る弾力的な統合補助金として。

**【被災した生活衛生関係業者への支援(7100万円)】** 自立支援、経営相談、共同利用設備への支援等の実施。

**【福島避難者帰還等就職支援事業の実施(5.6億円)】** 自治体や経済団体から構成される協議会に対し、就職活動支援セミナー等避難解除区域等への帰還者の雇用促進に資する事業を委託する。また、福島県の市町村に対し、実情に応じて助成金等雇用創出の支援ツールの活用方法や、手続き・運営等に関するアドバイス。さらに、福島県内外の避難者の就職支援を推進する。

## 「中国の経済と環境問題」

北野湘南

機会があって北京市、天津市など中国の中心的な都市周辺の経済発展地域を視察してきた。第三の発展地域として中国政府も大きな発展を期待している天津市では、渤海湾を臨む約 2300 キロ平方の巨大な工業集積地の中に鉄鋼、自動車などの工場建設や増設が進み、中国経済の力強さを感じるものだった。その一方、環境は悪化する一途だが、改善への取り組みは大きく遅れている。

中国の発展の牽引車となったのは 80 年代が広州周辺、90 年代上海、2000 年からは天津市とされる。天津市の経済発展の中核は渤海湾 150 キロにわたる巨大な工業集積地域。この地域だけで常住人口 250 万人、工業出荷額 1.5 兆元(約 2 兆 55 百億円)。最大の産業は、鉄鋼業、石油化学などの重化学工業と自動車、繊維とのこと。中国は鉄鋼生産量 5 億トンと世界最大の鉄鋼生産国となったが、これを支えたのが天津の鉄鋼業だった。トヨタ、京セラなど日本の代表的な企業も進出している。巨大な地域を東、西、南、中部と分けてさらに工業集積を進める方針。

中国の鉄鋼は日本に比較して品質の面で遅れているとされるだけに「鉄鋼業の近代化を進め、高付加価値製品への転換を図る」方針を打ち出している。重化学工業中心から航空・宇宙、医薬、情報通信といったハイテク産業の振興を図っていた。北京市は第二次産業が 22%、第三次産業 77% とサービス業のウエイトの高い先進国型経済へ変化していることがはっきりする。20 階建て以上の高層マンションの建設も衰える見せる様相もなく、北京周辺では売れ行きも好調という。中国の経済成長率は、10%から 7%台に落ちた

が、今後とも中国が高い成長を続けるのは確実に大きく落ち込む可能性は低いだろう。

天津市に入った日の PM2.5 の指数は 168、翌日はさらに上昇して 185。天気予報は「晴れ」であるが朝から空はどんよりと曇った状態で数百メートル先のビルもぼんやりと見える程度。「これでも比較的少ない。多い日は 200 どころか 250 を越える」と中国人の通訳は説明してくれた。北京市でも同様で滞在中の殆どは 160 を上回っていた。大雨が降った翌日の朝は、日本のように青空が広がり北京市の空もこんなに綺麗なのかと思ったが、それでも PM2.5 の濃度は 35。日本では 20 を越えたら大変な騒ぎになるが、中国では 160 程度は許容範囲のようだ。

環境の改善にも取り組んでいるが、公害の発生源となる工場を閉鎖し、地方への移転を図るといったことが中心のようだ。当局者も「中国はまだ経済発展が、遅れており当面は経済発展を優先する」という。「日本も 70 年代に同じような環境問題を抱えたが、工場の排気ガス、排水基準の強化などによって解決してきた」との我々の説明にはあまり関心を示さなかった。また、中国でトップクラスとの環境関連企業も見せてもらったが、日本の環境技術に比べると水準は低かった。中国の環境改善が大きく進むのはまだ先だろう。

北京市ではラッシュ時でも地下鉄に乗るにも日本の空港並みの手荷物検査と身体検査が必要。中国が自慢する新幹線に外国人が乗車するには、パスポートの提示が必要で切符は名前入り。外国人だけでなく中国人も手荷物、身体検査を経て発車 10 分前に列車の前に並ばないと乗れない。日本人なら自由体制の良さを実感するだろう。